



高齢者の予防接種



～流行前のワクチン接種は重症化予防に有効です～

インフルエンザワクチンは、発症そのものを完全に防御することはできませんが、重症化や合併症の発生を予防する効果は証明されています。流行前に接種して重症化に注意しましょう。

また、肺炎は、平成28年の日本人の死因の第3位で、65歳以上の高齢者が97%を占めています。

肺炎は、風邪やインフルエンザの合併症として大変多くみられます。

種類	高齢者インフルエンザ	23価高齢者肺炎球菌
公費負担の期間	平成30年10月1日(月)～平成31年1月31日(木) 【注意】この期間以外では公費負担は受けられません。	65歳以上の方は一生涯に一度いつでも接種可能(2回目以降は自費での接種になります)。有効期限はありません。
対象者	①65歳以上の方(平成31年1月31日基準日) 65歳の誕生日を迎える前でも、接種できます。 ②60～64歳の方で心臓、腎臓、呼吸器の機能の障害またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能の障害を有する方で、厚生労働省令で定めるもの(内部障害1級の方)。	以下の方で、過去に一度も接種していない方 ①65歳以上の方(平成31年4月1日基準日) ②60～64歳の方で心臓、腎臓、呼吸器の機能の障害またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能の障害を有する方で、厚生労働省令で定めるもの(内部障害1級の方)。
料金	医療機関で定めた額から公費負担分2,600円を差し引いた額。	医療機関で定めた額から公費負担分3,000円を差し引いた額。
場所	医療機関にて個別接種(市内の実施医療機関については「すこやか」をご覧ください)。	
予診票	対象となる方には平成30年9月末に個別郵送しています。	対象となる方には、平成22年以降、順次個別郵送しています。



インフルエンザとは

例年12月から3月にかけて流行します。

インフルエンザは「インフルエンザウイルス」に感染して起きます。38℃以上の発熱、頭痛や関節・筋肉痛など全身の症状が急に現れ、高齢の方

や種々の慢性疾患を持つ方は肺炎を

伴うなど重症化に注意が必要です。



肺炎とは

肺炎は細菌やウイルスなどが肺に入り込んで起こる炎症です。肺炎は年間を通して発症します。風邪やインフルエンザなど体の抵抗力が弱まった時にかかりやすいので、冬の時期は特に、注意が必要です。日常でかかる肺炎の原因菌で最も多いのが肺炎球菌で、成人肺炎の25～40%を占めます。

インフルエンザや肺炎の予防

1 手洗い

帰宅時、食事前、トイレの後だけでなく、こまめに手洗いをして雑菌を洗い流しましょう。



2 咳エチケット

咳やくしゃみが出る場合には、マスクを着用して周りへの配慮をしましょう。

3 口腔内の清潔

歯みがきなどで口腔内を清潔に保つことは、肺炎予防に有効とされています。

4 栄養・体力

日ごろからのバランスのいい食事や体力づくりも大切です。

5 予防接種

ワクチンで予防できることは、接種して備えましょう。